



2014年2月20日

各 位

会 社 名 イオン北海道 株式会社
 代 表 者 名 代表取締役社長 柴田 祐司
 (コード番号 7512 東証1部・札証)
 問合わせ先 取締役兼常務執行役員
 管理本部長 天廣 俊彦
 (TEL 011-865-9405)
 当社の親会社 イオン株式会社
 取締役兼代表執行役社長 岡田 元也
 (コード番号 8267 東証1部)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、2013年4月9日に公表した業績予想を下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 2014年2月期通期個別業績予想数値の修正 (2013年3月1日～2014年2月28日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想 (A)	154,300	8,100	7,700	3,100	29円84銭
今回発表予想 (B)	155,800	8,300	8,000	4,100	39円46銭
増減額 (B-A)	1,500	200	300	1,000	
増減率 (%)	1.0	2.5	3.9	32.3	
(ご参考) 前期実績 (2013年2月期)	152,054	8,052	7,677	3,038	29円25銭

2. 修正の理由

当事業年度は「北海道 No1 の信頼される企業」をビジョンに掲げ、「収益力の向上」に取り組んでまいりました。特に、お客さまの購買行動の変化に対応するための活性化投資を積極的に行い、食品売場の活性化においては、「おかず量り売りバイキング」の導入や冷凍食品売場の品揃えの拡充、なかでもイオンのブランド「トップバリュ」のワントレーでおいしい「レディーミール」の拡大を行い「簡便」「個食」への対応を進めました。また、ショッピングセンター内のテナントの入れ替えや再配置を行うなどの大型活性化にも取り組み、人気テナントの導入やゾーニングの見直しを行い、全館的な集客力のアップに努めてまいりました。

また「成長戦略の構築」として、小商圏フォーマットの小型スーパー「まいばすけっと」を当事業年度は新規に10店舗出店し、現在は17店舗体制で営業を行っております。

以上の結果、当事業年度の売上高は当初予想を上回る1,558億円(前期比102.5%)となる見込みであります。また利益面については、営業利益83億円(前期比103.1%)、経常利益80億円(前期比104.2%)となり、また、税効果会計に基づき、繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、法人税等調整額が減少する見込みとなったことから、当期純利益も当初予想を上回る41億円(前期比134.9%)となり、いずれも過去最高益となる見込みであります。

※上記記載の業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づいて作成したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上